

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 22 年 8 月 4 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200015		
法人名	医療法人社団林医院		
事業所名	グループホーム若紫の家		
所在地	広島市西区己斐中3丁目53-14 (電話) 082-2272-2111		
自己評価作成日	平成22年8月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先UR	http://www.hksiks.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3490200015&SCD=320
------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成22年9月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的で落ち着いた雰囲気を大切にしており、入居者様一人ひとりが穏やかに、その人らしい生活ができるように支援しております。町内会では副会長や組長を経験し、子ども110番を設置したり、地域行事への参加を積極的に行っております。居室からは外の日差しが入り、とても明るく開放的です。また、管理栄養士の指導をもとに栄養バランスの良い手作りの食事を皆様に提供しており、入居者様はおいしそうに召し上がっておられます。医師による週3回の回診や看護師も配置しており、心も体も快適で安心した生活を送ることが出来ます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

1. 開所以来、職員全員は地域の清掃や夏祭りの準備や参加を行い、また管理者が自ら町内会の組長を務めるなどしながら、接点を持つ努力をしている。日常的には利用者の方々と散歩や買物に出かけ、地域の人々と挨拶を交わしたり、話をしたりしており、利用者が地域で暮らし続けるための基盤作りが出来ている。
2. 特に利用者の健康面や医療面、安全面には配慮がなされており、主治医による週3日の往診や、関連の医療機関や介護事業所との連携はきめ細かく出来ている。
3. 職員の異動が若干あったが、理念のもとで職員全員は今以上に利用者1人ひとりが個性を大切に、思いや意向の把握に努めながら家庭的な雰囲気作りに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの役割を考えながら、郵便局やスーパーが事業所独自の生活圏の中にあることを活かし、これらとの関係を持ちながら利用者が安心して暮らせるように取り組んでいる。管理者と職員は理念を共感しながら話し合い、実践が理念に基づいたものとなるよう日常的に取り組んでいる。	ミーティングや月1回のユニット会議等の際に、職員全員で理念について話し合いの機会をもち、意識づけを行っている。日々利用者に関わる際に、理念に基づいて取り組んでいるのかを確認し合っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者や職員は町内運動会や月に一度の町内清掃等に積極的に参加し、馴染みの関係を築き上げ、気軽に立ち寄ってもらえるよう地域の人たちとコミュニケーションを取りながら、良い関係を築き上げている。入居者一人ひとりが地域とつながりを持ちながら、地域の一員として子供110番等を取り入れて、いつでも対応できるように地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。	町内会に加入し、事業所全体で対応をしている。開所以来、近隣の人々との関係作りは管理者と職員が地道に築いており、良好な関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員は勉強会を開き、認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく地域の方にも声かけをして安心して頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議や施設内行事への家族や地域の人々の参加を促し、広く意見を聞き、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。報告や情報のみならず、話し合いを通じて率直な意見を貰い、サービス向上に具体的に生かしていくことで改善への取組みを行っている。	2ヶ月に1回会議を開催し、利用者の状況やサービスの内容等を報告している。運営推進会議は、参加者にホームを理解していただき、地域への浸透を図り、和を広げていく機会となっている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は運営や現場の苦情を積極的に伝える為に、入居者の介護保険の手続きやケアの問題・記録等を話し合い情報を共有しながら共に取り組んでいる。	介護保険の更新時の状況、オムツの補助の要請の相談などを行いながら連携を深めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者が受ける身体的・精神的障害について全職員が正しく理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しないための支援を日常的に行っている。SECOMを導入しており、日中は鍵をかけなくてもよく、目の届かない場所でも察知出来るようにしている。</p>	<p>職員全員が、身体拘束によって利用者に与える身体的、精神的苦痛を理解し、拘束のないケアの実践に取り組んでいる。その日のケアを振り返り、気づかないうちに利用者との会話等で職員が言動を抑制していなかったのかを確認し合っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待についての研修会を開き、職員全員が日頃の気付きや意見を発表する場を設け、防止を徹底している。また、管理者や専門職員へ報告書を提出し広く意見を聞き、事業所内で防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入居者一人ひとりの身体的・精神的・経済的状況を管理者や職員が把握しており、制度の活用に努めている。制度の理解を深めるため、会議を開き随時関係者への案内を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際には、文章の提示に留まらず各担当職員より説明を行っている。入居前・入居後の不安や疑問に対する方に関しては、いつでも対応できるよう職員へ情報の共有を徹底している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談窓口の設置や利用者、家族とのコミュニケーションの中で意見や要望を集め、職員全体で把握、対処に努めている。意見や要望は随時、管理者・職員の対応策と共に提示し、運営へ反映している。</p>	<p>常日頃から、利用者とは日常的な会話の中から、また家族とは訪問時には必ず意見を伺っている。得られた意見や苦情等は、前向きに受け止め、活かしていく事業所の姿勢が伺えた。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から、一人ひとりに意見や提案を募ると共に、会議において発表の場を設けている。管理を通じて代表者へ随時報告がなされ、運営に関する事項について意思決定がなされている。	全体会議、ユニット会議で日常業務の中での気づきや改善点を提案している。職員からの気づきやアイデアは、積極的に検討し、質の確保につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、疲労やストレスの要因について気を配り、心身を休められるよう休憩場所や時間を設けている。また、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修後はミーティングを行い、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会の開催や研修に参加して意見交換や情報収集を行い、サービスの質の向上という共通の目的の為、日々福祉の充実に向け活動している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の不安や求めていることを理解するため、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が受け入れられるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日頃から家族とのコミュニケーションを密に取り、家族が求めているものを理解し、不安や思いを受け止め支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の想いや状況を確認して出来る限り対応していくように努め、早急な対応が相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的なサービスを提供せず、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、支援する側、される側という意識を持たず協働しながら和やかな生活が出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添いながら、日頃の状態をこまめに報告するとともに、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで培ってきた関係を断ち切らないように手紙やはがき、電話等を使用して関係が途切れないように支援している。また、馴染みの美容院へ行ったり、お墓参りを続けておられる入居者もいる。	利用者1人ひとりの入居前の地域社会での関係性を把握し、つながりを継続できる支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず暮らしを楽しめるよう支援している。利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口をつくり、関係性を大切にしておの後の支援に応じる姿勢を示している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてアセスメントを行い、思いや意志を把握できるように日々の行動や表情から汲み取るように心がけている。また、日頃からコミュニケーションを密に取るようにしている。	日々の関わりの中で、利用者1人ひとりの行動や体調の変化、言葉にならない気持ちを寄り添いながら読み取っている。不穏状況が見られた時は、一呼吸おいて気分を変えた状態で対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら介護計画などを活用し、本人や家族の協力を得てこれまでの暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに、職員全員が把握出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人やご家族の思いや意見を聞き、意向を中心にアセスメントを行い、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。</p>	<p>職員が利用者を担当する受け持ち制を採用しており、全利用者を毎月モニタリングしている。変化時には、随時の見直しを行っている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>日々の申し送りにより入居者の変化を確認し、都度記録している。申し送りノートを活用し、重要事項は全て記載するようにし、職員間で共有しながらケアに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>利用者や家族の状況や要望に向き合い、その方の状態に応じて同系列の老健や協力病院への転居が出来るなどの対応をしている。また、家族の方への食事の提供などの声かけを行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう各機関等へ運営推進会議への参加を促し、意見交換できるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人、もしくは家族の希望する医療機関で受診している。医師の訪問診療、24時間受け入れ病院連携(福島生協病院)各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>利用者や家族の希望のかかりつけ医となっており、事業所の協力医は往診もあり、受診結果に関する情報の共有ができています。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	個々の状態を良く知る看護師がおり、日常の健康面や医療面について、他の職員と情報を共有し対応すると共に、薬についての勉強会を開き協働体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族や医療機関と相談しながらスムーズな退院につながるよう退院計画を本人・家族・スタッフで話し合い支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居と同時に家族・医師・職員等、チーム全体で話し合いを行っている。対応が可能なこと・困難なこと・不安なこと等を提携病院や協力医療機関と情報を交換しながら最後まで個人の尊厳を維持できるように支援している。	事業所の力量や体制が、重度化や終末期を支えていけるのかを見極め、他の利用者への影響も踏まえて対応をしている。早期からの話し合いと、関係者全体の方針の統一も図られている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr・西野Dr・看護師の指示や指導のもとに、全職員が対応出来るように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を経て年2回、利用者と共に防災訓練を行っており避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練や点検を行っている。また、町内会を通じて火災などが起きたときのご協力を得ている。	消防署の協力を得て年2回利用者とともに、避難訓練を行っている。地域への協力は、常日頃からの近隣とのつきあいの成果として、得られている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助の必要な時には、まず本人の気持ちを考えてさりげないケアを心がけたり、羞恥心に配慮して本人の尊厳を維持している。また、個人情報の保護についても外部に漏れないように全職員が徹底している。	日常の支援時においても利用者の尊厳を損ねることのないように心がけており、特に言葉掛けには注意をしている。個別性や守秘義務について理解したケアを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や好みを把握し、意思表示が困難な場合でも表情や反応から思いを理解し、個々の能力に合わせた説明を行いながら、希望や願いを意図的に引き出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個人性のある支援や本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性・希望・生活歴において好みや意向を尊重し、季節感や清潔感あるその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。毎月の理美容で希望に合わせたカットや毛染めをしてもらえるよう連携を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	定期的にアンケートを取り、好みの食べ物・季節に合った食事を提供しており、利用者と一緒に食事を味わいながら楽しめるよう支援している。また、調理の下準備を手伝ってもらったり、食後には皿洗いなど後片付けを入居者と一緒に行っている。	利用者の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫し、利用者と職員が同じ食卓を囲んで同じものを楽しんで食べている。また、事業所の管理栄養士から専門的なアドバイスを受けながら、栄養管理にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し，その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり，副食を食べやすく刻んだりと管理栄養士を中心に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	イソジンを使ってのうがいと毎食後の歯磨き，義歯洗浄等の口腔の清潔保持は，日常的に支援している。また，利用者によってはガーゼやスポンジを使用して肺炎の防止に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの身体状況に応じて出来る所は見守りを行い，自尊心に配慮して出来ない所はさりげなくカバー出来るように支援している。	利用者1人ひとりの排泄パターンを把握し，本人に合わせたトイレ誘導を行いながら自立にむけ支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々の便秘の原因を探り，食事・排泄・活動状況等を見直し，家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。また，必要であれば無理のない下剤調整や洗腸なども検討している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。	職員のペースに合わせず利用者の希望に合った曜日，時間帯で入浴を支援している。入浴前にはバイタルチェックをして安全に楽しみの時間となるように健康面の注意に努めている。不安や恐怖心を持たないように職員も一緒に入り心情を察した配慮を行っている。	入浴は羞恥心・恐怖心・負担感等への配慮をし，個々に浴った支援をしている。入浴を嫌がる利用者には，言葉の工夫をしながらチームプレイ等によって1人ひとりにあわせた入浴支援を試みている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今までの生活習慣等を検討しながら日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等も考慮してゆっくり休息や睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理事長、主治医、看護師による薬の勉強会を行い副作用、用法、用量について理解し、職員が個々の内服薬を把握出来るようにファイルを作成している。また、服薬時には本人に手渡しきちんと服用出来ているか確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を最大限に活かして自分らしく暮らせるように1人ひとりの生活歴を把握し、経験や知恵を発揮する場面を作っている。また、ボランティア活動も定期的に取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出が困難と決め付けず、重度の方でも外出が出来るように介護タクシーを利用したりご家族の方にも協力していただき、希望に沿った支援を行っている。また、季節の行事や外出希望者には職員が同行して支援を行っている。	天気が良く風のない日は、近隣に散歩や買物に出かけたり、外出が難しい方にも工夫をしながら自然に触れる機会をつくり、ふつうの暮らしをいっしょに楽しむことに取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人の希望や力に応じて家族と相談しながら少額でも所持金を持って頂いたり、買い物に行く時は本人が支払えるように支援する等、お金がある安心感や満足間を感じて頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、暑中見舞を出すための支援を行っており、プライバシーに配慮しながら希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関は季節に合った花や飾りを取り入れ、入りやすい雰囲気になっている。リビングは風通しが良く、山や緑が見えて季節感を感じやすい。台所は利用者にとって安全に使用できるようになっており、トイレは車椅子でも出入りしやすい大きさにしている。照明類は落ち着きのある空間作りに配慮している。	リビングの大きな窓からは、山や近隣の住宅の町並みが見え、明るい日差しが入ってきている。また、リビングでは利用者がくつろぎながら食事を準備中の職員と会話を楽しみ、安心とリラックスの場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間とフロアで他の入居者と自由に団欒出来るようソファや椅子を置き、気の合う入居者同士がくつろげる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が落ち着いて過ごせるように、使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂いたり、本人や家族と相談しながらその人らしく居心地の良い居室作りを行っている。	利用者1人ひとりの慣れ親しんできたものや、配置を大切にして、リロケーションを起こさないようにし、なじみの環境作りに配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺りや階段に滑り止め等を設置しており、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置に配慮している。また、状態が変わり混乱が生じた時は話し合いを行い、対策をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	●ほほ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	●毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほほ全ての利用者が ●利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほほ全ての利用者が ●利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	●ほほ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	●ほほ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	●ほほ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	●ほほ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	●ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	●大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	●ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	●ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域密着型サービスの役割を考えながら、郵便局やスーパーが事業所独自の生活圏の中にあることを活かし、これらとの関係を持ちながら利用者が安心して暮らせるように取り組んでいる。管理者と職員は理念を共感しながら話し合い、実践が理念に基づいたものとなるよう日常的に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	管理者や職員は町内運動会や月に一度の腸内清掃等に積極的に参加し、馴染みの関係を築き上げ、気軽に立ち寄ってもらえるよう地域の人たちとコミュニケーションを取りながら、良い関係を築き上げている。入居者一人ひとりが地域とつながりを持ちながら、地域の一員として子供110番等を取り入れて、いつでも対応できるように地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	職員は勉強会を開き、認知症高齢者に対して地域の方々の理解を促し、入居されている方だけでなく地域の方にも声かけをして安心して頂けるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議や施設内行事への家族や地域の人々の参加を促し、広く意見を聞き、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けていけるよう支援している。報告や情報だけに留まらず、話し合いを通じて率直な意見を貰い、サービス向上に具体的に生かしていくことで改善への取組みを行っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所は運営や現場の苦情を積極的に伝える為に、入居者の介護保険の手続きやケアの問題・記録等を話し合い情報を共有しながら共に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>利用者が受ける身体的・精神的障害について全職員が正しく理解しており、必要に応じて専門職の助言を受けながら拘束しないための支援を日常的に行っている。SECOMを導入しており、日中は鍵をかけなくてもよく、目の届かない場所でも察知出来るようにしている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待についての研修会を開き、職員全員が日頃の気付きや意見を発表するばを設け、防止を徹底している。また、管理者や専門職員へ報告書を提出し広く意見を聞き、事業所内で防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>入居者一人ひとりの身体的・精神的・経済的状況を管理者や職員が把握しており、制度の活用に努めている。制度の理解を深めるため、会議を開き随時関係者への案内を行っている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約の際には、文章の提示に留まらず各担当職員より説明を行っている。入居前・入居後の不安や疑問に対する方に関しては、いつでも対応できるよう職員へ情報の共有を徹底している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>相談窓口の設置や利用者、家族とのコミュニケーションの中で意見や要望を集め、職員全体で把握、対処に努めている。意見や要望は随時、管理者・職員の対応策と共に提示し、運営へ反映している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日頃から、一人ひとりに意見や提案を募ると共に、会議において発表の場を設けている。管理を通じて代表者へ随時報告がなされ、運営に関する事項について意思決定がなされている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の資格取得に向けた支援を行い、疲労やストレスの要因のついて気を配り、心身を休められるよう休憩場所や時間を設けている。また、職員同士の人間関係を把握したりするよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	職員の質の確保、向上に向けて事業所外で開催される研修になるべく多くの職員が受講できるようにしている。また、研修後はミーティングを行い、報告書を全職員が閲覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会の開催や研修に参加して意見交換や情報収集を行い、サービスの質の向上という共通の目的の為、日々福祉の充実に向け活動している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	利用者の不安や求めていることを理解するため、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向き合い、職員が受け入れられるような関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	日頃から家族とのコミュニケーションを蜜に取り、家族が求めているものを理解し、不安や思いを受け止め支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人や家族の思い状況を確認して出来る限り対応していくように努め、早急な対応が相談者には可能な限り柔軟な対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一方的なサービスを提供せず、人生の先輩であるという考えを職員が共有しており、支援する側、される側という意識を持たず協働しながら和やかな生活が出来るように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	職員は家族の思いに寄り添いながら、日頃の状態をこまめに報告するとともに、本人と一緒に支えるために家族と同じような思いで支援していることを心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまで培ってきた関係を断ち切らないように手紙やはがき、電話等を使用して関係が途切れないように支援している。また、馴染みの美容院へ行ったり、お墓参りを続けておられる入居者もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となり、孤立してしまう状況を作らず暮らしを楽しめるよう支援している。利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用者の事情等で利用が終了した後も相談窓口をつくり、関係性を大切にしてその後の支援に応じる姿勢を示している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族や本人を交えてアセスメントを行い、思いや意志を把握できるように日々の行動や表情から汲み取るように心がけている。また、日頃からコミュニケーションを蜜に取るようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら介護計画などを活用し、本人や家族の協力を得てこれまでの暮らしが出来るよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	カンファレンスシートをいつでも見やすい場所に置いておき、利用者一人ひとりの生活リズムを理解するとともに職員全員が把握出来るようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	本人やご家族の思いや意見を聞き、意向を中心にアセスメントを行い、職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	日々の申し送りにて入居者の変化を確認し、都度記録している。申し送りノートを活用し、重要事項は全て記載するようにし、職員間で共有しながらケアに活かしている。		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	利用者や家族の状況や要望に向き合い、その方の状態に応じて同系列の老健や協力病院への転居が出来るなどの対応をしている。また、家族の方への食事の提供などの声かけを行っている。		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	利用者が安心して地域で暮らし続けられるよう各機関等へ運営推進会議への参加を促し、意見交換できるよう支援している。		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	本人、もしくは家族の希望する医療機関で受診している。医師の訪問診療、24時間受け入れ病院連携(福島生協病院)各医療機関関係者確保(外科・内科・皮膚科・歯科)により、適切な医療が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	個々の状態を良く知る看護師がおり、日常の健康面や医療面について、他の職員と情報を共有し対応すると共に、薬についての勉強会を開き協働体制を築いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、本人のストレスや負担を軽減させるよう努めている。また、家族や医療機関と相談しながらスムーズな退院につながるよう退院計画を本人・家族・スタッフで話し合い支援を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居と同時に家族・医師・職員等、チーム全体で話し合いを行っている。対応が可能なこと・困難なこと・不安なこと等を提携病院や協力医療機関と情報を交換しながら最後まで個人の尊厳を維持できるように支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	事業所独自のマニュアルに基づき、当理事長林Dr・西野Dr・看護師の指示や指導の基、全職員が対応出来るように定期的に学ぶ機会を設け、緊急時に活かせる技術を身に付けるよう取り組んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	消防署の協力を経て年2回、利用者と共に防災訓練を行っており避難経路の確認、消火器の使い方などの訓練や点検を行っている。また、町内会を通じて火災などが起きたときのご協力の力を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	援助の必要な時には、まず本人の気持ちを考えてさりげないケアを心がけたり、羞恥心に配慮して本人の尊厳を維持している。また、個人情報の保護についても外部に漏れないように全職員が徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の希望や好みを把握し、意思表示が困難な場合でも表情や反応から思いを理解し、個々の能力に合わせた説明を行いながら、希望や願いを意図的に引き出せるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースを大切にし、その日・その時の本人の気持ちを尊重して出来るだけ個人性のある支援や本人の希望を尋ねたり、相談しながら過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者の個性・希望・生活歴において好みや意向を尊重し、季節感や清潔感あるその人らしいおしゃれが出来るよう支援している。毎月の理美容で希望に合わせたカットや毛染めをしてもらえるよう連携を取っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	定期的にアンケートを取り、好みの食べ物・季節に合った食事を提供しており、利用者と一緒に食事を味わいながら楽しめるよう支援している。また、調理の下準備を手伝ってもらったり、食後には皿洗いなど後片付けを入居者と一緒に行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握し、その日の体調に合わせて主食をお粥にしたり、副食を食べやすく刻んだりと管理栄養士を中心に対応している。		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	イソジンを使ってのうがいと毎食後の歯磨き、義歯洗浄等の口腔の清潔保持は、日常的に支援している。また、利用者によってはガーゼやスポンジを使用して肺炎の防止に努めている。		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	一人ひとりの身体状況に応じて出来る所は見守りを行い、自尊心の配慮して出来ない所はさりげなくカバー出来るように支援している。		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	個々の便秘の原因を探り、食事・排泄・活動状況等を見直し、家族とも相談しながら自然排便を促すよう働きかけている。また、必要であれば無理のない下剤調整や浣腸なども検討している。		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	職員のペースに合わせず利用者の希望に合った曜日、時間帯で入浴を支援している。入浴前にはバイタルチェックをして安全に楽しみの時間となるように健康面に努めている。不安や恐怖心を持たないように職員も一緒に入り心情を察した配慮を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	今までの生活習慣等を検討しながら日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めている。また、一人ひとりの体調や表情、希望等も考慮してゆっくり休息や睡眠が取れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	理事長、主治医、看護師による薬の勉強会を行い副作用、用法、用量について理解し、職員が個々の内服薬を把握出来るようにファイルを作成している。また、服薬時には本人に手渡しきちんと服用出来ているか確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	潜在している記憶や出来る力を最大限に活かして自分らしく暮らせるように一人ひとりの生活歴を把握し、経験や知恵を発揮する場面を作っている。また、ボランティア活動も定期的に取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出が困難と決め付けず、重度の方でも外出が出来るように介護タクシーを利用したりご家族の方にも協力して頂き、希望に沿った支援を行っている。また、季節の行事や外出希望者には職員が同行して支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	その人の希望や力に応じて家族と相談しながら少額でも所持金を持って頂いたり、買い物に行く時は本人が支払えるように支援する等、お金がある安心感や満足間を感じて頂けるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	日常の手紙、暑中見舞を出すための支援を行っており、プライバシーに配慮しながら希望に応じて日常的に電話や手紙を出せるように支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関は季節に合った花や飾りを取り入れ、入りやすい雰囲気になっている。リビングは風通しが良く、山や緑が見えて季節感を感じやすい。台所は利用者にとって安全に使用できるようになっており、トイレは車椅子でも出入りしやすい大きさにしている。照明類は落ち着いた色のある空間作りに配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	個室で一人になれる空間とフロアで他の入居者と自由に団欒出来るようソファや椅子を置き、気の合う入居者同士がくつろげる空間を設けている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	本人が落ち着いて過ごせるように、使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂いたり、本人や家族と相談しながらその人らしく居心地の良い居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	手摺りや階段に滑り止め等を設置しており、利用者一人ひとりの身体状態に合わせて危険の防止や自分の力を活かして動けるように物の配置に配慮している。また、状態が変わり混乱が生じた時は話し合いを行い、対策をしている。		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	●ほほ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらい ③利用者の3分の1くらい ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	●毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほほ全ての利用者が ●利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほほ全ての利用者が ●利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	●ほほ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	●ほほ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	●ほほ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	●ほほ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	●ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	●大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	●ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	●ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	●ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム若紫の家

作成日 平成 22 年 9 月 14 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域の中で若紫の家を知っておられない方がいる。	多くの方に若紫の家を知ってもらおう。	事業所の概要や活動内容を記載した広告を配布していく。	3 か月
2	35	施設内での消防訓練は行っているが、地域の方を交えた訓練を実施すること	災害時の地域との協力体制の強化	近隣へ消防訓練の実施予定を伝え、参加をお願いする。	3 か月
3	49	外出支援についての理解	外出支援の理解を得られるように努める	毎月の手紙、通信などを活用して家族の方に活動内容をアピールする。	3 か月
4	51	昔馴染みの関係が少なくなっている。	家族の方だけでなく、昔馴染みの友人の方にも来所してもらおう	入居者、家族の方を交えて情報を収集し、手紙を書く	4 か月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。